

## 山梨地域のSPARC事業



# 知(地)のソーシャルキャピタル ～学びの山梨モデル～構築事業



**山梨大学**  
UNIVERSITY OF YAMANASHI  
地域の中核 世界の人材

事業責任大学:山梨大学  
参加大学:山梨県立大学



公立大学法人  
**山梨県立大学**  
Yamanashi Prefectural University

令和6年9月30日

# 目次

---

## I. 地域活性化人材育成事業～SPARC～ 概要・申請要件等

## II. 山梨地域のSPARC事業の説明

### 知(地)のソーシャルキャピタル～学びの山梨モデル～構築事業

#### ○事業計画の概要

#### ○令和4,5年度の取組状況

1. 連携開設科目を活用した教養教育課程の充実と効率化  
事業の推進体制 ～大学等連携推進法人～
2. 教養教育課程におけるSTEAM教育の全学的な推進
3. 事業の推進体制 ～地域連携プラットフォーム～
4. 教育プログラムの構築
5. 課題意識・目的意識の高い入学者の確保に向けた高大接続の確立
6. リカレント教育の推進と共助型学修コミュニティの構築
7. 地域人材養成センターの一体的運営による垂直統合型人材支援体制の整備
8. 山梨地域の広報活動、幹事校としての活動

# 【文部科学省】 地域活性化人材育成事業～SPARC～ 概要

## 地域活性化人材育成事業(SPARC)とは

Supereminent Program for Activating Regional Collaboration

地域の共同(協調、協力、合作)を活性化させる卓越したプログラム

## ■ 目的

「地域活性化人材育成事業～SPARC～」は、大学等が地域の中核として機能していくため、**地域社会と大学間の連携**を通じて**既存の教育プログラムを再構築**し、**地域が真に求める人材を育成する**機関に転換することを目的とした事業です。そして、本事業で確立する先進的なモデルを全国に普及させ、我が国の**大学教育改革**を展開していくことを目指します。

【タイプ①】 学部等の再編を目指す取り組み  
山梨大学、信州大学、山口大学

【タイプ②】 高度な連携を目指す取り組み  
岐阜大学、熊本大学、宮崎大学

# 地域活性化人材育成事業SPARCの申請要件(1)

次の、①～⑧の事項について、各大学の強みと特色を活かして取り組む構想であること

## ① 産学官金による地域連携プラットフォームを構築

産学官金が強固かつ持続的な連携体制を整備し、その中で地域が求める人材像を設定するとともに、地域の教育資源を活用した新しい学位プログラムを構築・運営する

## ② 令和7年3月までに大学等連携推進法人を設立

各大学の強みを相互に共有し、連携大学間において、連携開設科目を活用した取組を行う

## ③ 地域が求める人材に必要な文理横断型の教育プログラムへと再構築

事業責任大学及び参加大学の学位プログラム及び教育課程を再構築

## ④ 地域社会の現状や課題を学ぶ科目や、地域課題に対して主体的に参画・挑戦する学生の育成に寄与する教育

地域課題PBL、地域学、アントレプレナーシップ教育等を連携大学間協働で実施する

## ⑤ ②～④の取組を必ず正課内(124単位)の取組とする

# 地域活性化人材育成事業SPARCの申請要件(2)

- ⑥ 本事業との接続を意識した高大接続に係る取組を実施  
連携大学による文理融合科目の共同開設等を行い高校生に先取り履修させるなど
  
- ⑦ 社会人等を対象に履修証明プログラムの構築や講座の開講等の取組(リカレント教育)を実施
  
- ⑧ 【タイプ①】については、文理横断型の教育を基盤とした学部等へと再編する  
中間評価時に学部等の再編計画を提出  
令和10年4月までに学生受け入れを実施

## その他

- 本事業の実施に必要な教学マネジメントや管理運営の確立のために必要な体制を整備
  
- 補助期間終了後に、本事業のプログラムの質が下がることがないように基金の創設など外部資金獲得方策も含め戦略的な資金計画を作成

# 【山梨地域】事業計画の概要（事業責任大学：山梨大学、参加大学：山梨県立大学）

## 【事業の共通目標】

- ① 連携開設科目を活用した教養教育課程の充実と効率化
- ② 教養教育課程におけるSTEAM教育の全学的推進
- ③ 地域リーダーおよび産業中核人材としてのスキルセットに関わる実践知教育プログラムの実施  
 (山梨大) 工学部及び生命環境学部におけるPBL科目の増設、社会科学の知見やアントレ教育・地域教育との融合による理工系学部の改革  
 (県立大) 国際政策学部「創発デザインコース」の新設、人間福祉学部・看護学部：学部合同「ヒューマンサービスイノベーションコース」新設
- ④ リカレント教育の推進と共助型の学修コミュニティの構築
- ⑤ 課題意識・目的意識の高い入学者の確保に向けた高大接続の確立
- ⑥ 地域人材養成センターの一体的運営による垂直統合型人材支援体制の整備

## 地域の未来を見据えた人材育成

“地域産業”を“強み”に「国内外」に挑む人材  
 “高付加価値化”を“強み”に「県内」に人を呼び込む人材

### 【地域連携プラットフォーム】 地域人材養成推進会議

(一社)大学アライアンスやまなし

高度な地域・大学間連携の枠組みにより、  
参画大学において、**教育改革**を実現

国立・公立の設置形態を超えた強力な連携  
(**全国初**となる大学等連携推進法人の認定)

⑤ **【高大接続改革】**  
目的意識・課題意識の高い学生の育成と入試への反映  
**探究型学習の支援、発表機会を大学・起業家と連携**

**地域人材養成センター（両大学に設置済）**  
実践知教育(学部)・高校生・社会人への学びのサポート

④ **【リカレント教育】**  
社会ニーズに合致したリカレント教育事業  
産学官金交流機会と“学び”のコミュニティ構築

③ **山梨大学**  
UNIVERSITY OF YAMANASHI

“自然科学”と“社会科学”の翻訳者

- 生命** 地域課題解決実践プログラム
- 工学** 工学の社会実践プログラム
- 生命** 環境科学の社会実践プログラム

PBL科目の増設

⑥ **垂直統合型人材支援=学びの山梨モデル**

“連携開設科目”を活用した教養教育課程の充実と効率化

- ① 山梨大学の**教養教育課程の連携開設率100%**
- ② 教養教育課程における**STEAM教育の全学的推進**

アントレプレナーシップ教育と地域学の強化  
山梨県立大学のリソースを山梨大学へ展開

③ **山梨県立大学**  
Yamanashi Prefectural University

実践知教育にもとづいた現場変革人材の育成  
DXによる産業変革、高付加価値化

- 国際** 創発デザインコース(文理横断)  
DX, IoTを活用した産業分野での現場変革人材
- 看護** ヒューマンサービスイノベーションコース(DX人材)  
医療・福祉現場の高付加価値化人材  
(社会人履修証明プログラム)
- 福祉**

(R10以降)  
(学部等連係課程) **共生創造学環**の開設  
文理横断型学位プログラム  
**リーダー型の地域貢献**に資する人材を育成

地域社会との本格的連携・人材育成・イノベーション創出  
(多様な人々の多様な社会参加が**新しい価値を創造**)

(R10以降)  
(工学系新学科) **メイカーズ学科**の新設検討  
「ものづくり分野」の学位プログラム  
県内成長産業で**現場変革**を促す人材を育成

誰もが自身・地域の“停滞から成長”を実感できる  
**知(地)のソーシャルキャピタルの構築**

※学科・課程の名称は仮称

# 事業の推進体制 ～大学等連携推進法人(大学アライアンスやまなし)～



## (一社)大学アライアンスやまなし

### 運営体制

代表：山梨大学 学長 副代表：山梨県立大学 理事長・学長



### 理事会

業務執行の決定等  
【大学関係者・外部識者で構成】  
(理事11名・監事2名)



### 総会

重要事項の決議  
【参加法人(社員)の代表で構成】  
(2法人の代表:学長・理事長)



### 大学等連携推進評議会

業務の実施状況を評価  
【各界の有識者から構成(第3者機関)】  
(自治体・県内教育関係者・有識者・大学OB 12名)

意見具申

理事会傘下の委員会

### 監事

理事の職務執行を監査

教育の質保証委員会

連携事業実施委員会

### 具体的な連携事業を検討

教養教育WG

看護教育WG

幼児教育WG

教職課程WG

社会科学  
地域貢献WG

管理運営WG

学生支援WG

共同研究推進  
WG

令和5年6月27日現在

令和元年12月18日設立

大学等連携推進法人認定  
(令和3年3月29日)



山梨大学  
UNIVERSITY OF YAMANASHI  
地域の中核 世界の人材



公立大学法人

山梨県立大学  
Yamanashi Prefectural University

# 連携開設科目を活用した教養教育課程の充実

○連携開設科目開設実績  
 令和3年度 53科目  
 令和4年度 132科目  
 令和5年度 156科目  
 令和6年度 187科目(予定)

## 連携開設科目の状況

・令和5年度実績 153科目開講(うち教養教育科目129科目) 履修登録者数464名

	山梨大学主幹科目	山梨県立大学主幹科目	合計
科目数	74科目	79科目	153科目
(教養教育科目)	(58科目)	(71科目)	(129科目)
履修登録者数	272人	192人	464人
(教養教育科目のみ)	(270人)	(181人)	(451人)

・令和6年度予定 187科目開講(うち教養教育科目162科目)

	山梨大学主幹科目	山梨県立大学主幹科目	合計
科目数	110科目	77科目	187科目
(教養教育科目)	94科目	68科目	(162科目)

### 「フューチャーサーチ」(山梨大学)

**86人(山梨大44人、県立大42人)受講**  
 地域に関するプロジェクトの企画・実施などを通じて、地域が抱える問題を把握し、その解決の糸口を探ることができる思考方法、活動方法を実践的に学ぶ。キャリア教育の一環として、プロジェクトを通じて、実際の仕事や企業を知ること、将来のキャリアデザインに活かすことを目的とする。



### 「アントレプレナーシップとスキル」(山梨県立大学)

**11人(県立大9人、山梨大2人)受講**  
 各地で活躍されている方々の取り組みを学び、優れた起業家のマインドセット、スキルセットに触れ、具体的なビジネスモデルを構築し実践する。理論と実践の両輪で、地方創生の担い手たる起業家の育成を目的とする。





# 教養教育課程の改革・教養教育科目数の削減に向けた取組

両大学において教養教育の在り方の見直しを行い、教養科目の共同実施など、開設科目のスクラップ&ビルドを実施し、質の高い教育を提供するとともに、他分野に再投資する教育資源の捻出に取り組む。

## 山梨大学

- 全学共通教育科目の再編を令和7年度に予定しており、ディプロマポリシーの見直し・カリキュラムの見直しを行うとともに、教養教育科目は「学術科目群」として分類し、科目数の削減を図る予定。
- 科目数の削減にあたっては、先行する山梨県立大学の教養教育の改革後の連携開設科目の提供状況を踏まえ、教学マネジメント機能によりディプロマポリシーにおけるコンピテンシー等関連等を検討し、科目の整理や削減に取り組むこととしており、そのための検討体制を整備した。

## 山梨県立大学

- 令和6年度に全学共通科目を全面的に改正する。データサイエンス科目の必修化や「ビジネス構想力・経営マインド醸成」などの「科目パッケージ」を複数用意することで、学生が幅広く、且つ、教養を深めることができるプログラムとする。それに向けてディプロマ・ポリシーをはじめ3つのポリシーの見直しを行い、カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーの再構築を行う。
- 学士力(コンピテンシー)に沿った科目構成に変更し、令和4年度の134科目から令和6年度は100科目(新設16科目含む)に削減する予定である(25.4%減)。
- 令和6年度以降はポートフォリオを活用した学生の自己評価の要素を取り入れ、学生の学修到達度を測る。これらを科目の新設・廃止の検討材料とし、カリキュラムの再編を継続的に実施する。

# 教養教育課程におけるSTEAM教育の全学的な推進

## 山梨大学

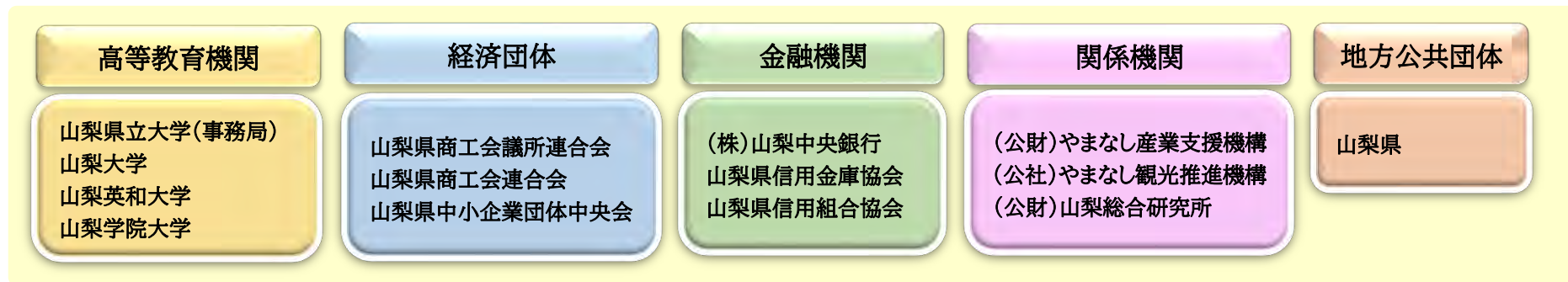
- 令和7年度の全学共通教育科目の改革の中で新たに学術科目群を追加し、その枠組みの中で**全学的「STEAM教育」への対応**を進めている。
- データサイエンス分野の新たに**「STEAM教育」**に対応出来るDX系やAI系の内容も含んだ授業科目を新設し、**令和6年度から試行的に開講する。**

## 山梨県立大学

- 令和6年度からの全学共通科目の全面改訂に向けて、「**データサイエンス基礎Ⅰ**」、「**データサイエンス基礎Ⅱ**」を**全学的に必修科目**とした。また、**連携開設科目事業**として、「**データサイエンス入門**」(5名受講)など**20科目のSTEAM科目**を山梨大学主幹科目として開講(令和5年度実績)しており、本学にない教育資源を活かして、学生の学修機会の充実を図っている。
- 令和6年度には「**数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度**」の「**リテラシーレベル**」を申請する準備を進めており、さらに「**応用基礎レベル**」の申請への検討を始めている。

# 事業の推進体制 ～地域連携プラットフォーム(地域人材養成推進会議)～

## 1 構成機関 (令和5年3月 設置)



## 2 会議構成

- 地域連携プラットフォームの名称を「地域人材養成推進会議」とし、「全体会議」と「部会」により構成
- 「全体会議」は、構成機関の長により構成
- 「部会」は、全体会議が指名する者により構成し、専門的な事項を協議

## 3 会議開催状況(令和5年度)

- 第2回全体会議 令和6年1月29日
  - ①教育プログラム検討部会の報告
  - ②経営者意識調査の分析結果
  - ③両大学の新しい教育プログラム
  - ④新規部会(学位プログラム検討部会)の設置
- 第1回教育プログラム検討部会 令和5年6月9日
  - ①全体会議の概要説明
  - ②両大学が考える教育プログラム
  - ③経営者意識調査
- 第2回教育プログラム検討部会 令和5年11月8日
  - ①これまでの経緯
  - ②両大学の地域ニーズに対する現状の取り組み
  - ③両大学の新しい教育プログラム



# 教育プログラムの構築 ～教育プログラムで育成すべき人材像～

【山梨地域で求められる人材像】 地域プラットフォーム全体会議, 教育プログラム検討部会, 経営者意識調査

“地域産業”を“強み”に「国内外」に挑む人材

山梨県を牽引する産業が、さらに強みを発揮できる産業群となるような構造転換を、“現場”において成しえる人材

“高付加価値化”を“強み”に「県内」に人を呼び込む人材

県民が豊かさを実感しつつ生活できる社会を牽引する人材

人材育成の  
キーワード

① 強靱化を実現する専門人材:

感染症や自然災害に対し、公共政策的視点で課題を解決

② 高付加価値化を提供できる専門人材:

地域の特色や産業から、新たな価値創造に繋げる事業を展開

③ 基礎条件を充実・支えられる専門人材:

福祉・介護・環境・教育の充実や整備を図り、男女共同参画社会・多様性ある共生社会を構築

## 共通する教育の特徴

### ① 自由に思考し続ける力

卒業後も生きるリベラルアーツ

(観察力・論理的分析力、自他理解力、表現力・対話力、情報選択・活用技術、キャリア形成力)

### ② (自然と)社会の複雑さを認識する力

広い視野と柔らかい発想

(地域理解力、社会理解力、実技、当事者意識)

### ③ 学びの往復を実践する力

地域PBLによる試行錯誤と自己強化

(課題発見力・動機獲得力、継続性・協働力・探求力、構想力)

教育特徴  
キーワード

- **文理横断教育**の増強で汎用的能力を養成
- **社会実装**を意識することにより学びの定着と複層的理解を促進
- **PBL**で**思考、俯瞰、実践**を往復し、課題発見・動機獲得、主体性、越境性、対話力を醸成
- **地域学**:山梨の課題理解、地元愛の育成
- **アントレ教育**による価値創造と自己実現

# 山梨大学の3プログラム

## 環境科学の社会実践プログラム

生命環境学部 環境科学科

【育成する人材像】

地域資源を活用して新事業を展開できる人材

公共政策的視点で課題を解決

- ・環境破壊や自然災害による恩恵の喪失を減らすことができる人材
- ・風土に根ざした持続的な農林水産業の提案や住空間を創出できる人材

【プログラムの特徴】

- ・自然管理・保全系科目に社会科学系科目を追加して文理横断教育を補強
- ・PBL科目:既設16単位に加えて新設14単位(うち地域PBLが10単位)

## 地域課題解決実践プログラム

生命環境学部 地域社会システム学科

【育成する人材像】

文理横断型公務サービス系人材

多様性のある共生社会を構築

- ・現場での学びを積み重ねることで地方創生の新たな姿を探っていける人材
- ・地域課題を俯瞰し多様性に満ちた共生社会の構築に取り組むことのできる人材

【プログラムの特徴】

- ・DX系科目の追加による文理横断教育の増強
- ・PBL科目(14単位)の履修を通じて学科専門科目の学修意欲を向上

## 工学の社会実践プログラム

工学部 工学科

【育成する人材像】

経営的視点を有した工学系人材

地域の課題を工学(技術)で解決

- ・高度に進化(深化)した工学(技術)を身に付け、複雑化する現代の地域社会問題を解決できる人材

【プログラムの特徴】

- ・社会と科学技術 + 他学部科目・連携科目
- ・PBL科目:地域リーダー特別演習・実習(新設4単位)+キャリア形成実習

共生創造学環

# 山梨県立大学 2つの教育プログラムの構築

## 「創発デザインコース」 (R6より国際政策学部内に設置)

### 現状の問題点

- 県内就職率30%
- 山梨県の基幹産業である「ものづくり」産業と疎遠
- 地域学、アントレ教育の弱さ
- STEAM教育の弱さ

### 新コースのポイント

1. R10年度からのメイカーズ学科(工学系新学科)を見据えたコースワークの新設
2. 地域の産業界(特に製造業分野)を巻き込んだPBL科目の設置
3. 実践型英語、データサイエンス科目の設置
4. 高年次教養科目としてのPentas Yamanashiの活用
5. STEAM教育における山梨大学との連携による新規科目・連携開設科目の活用

## 「ヒューマンサービスイノベーションコース」 (R6より人間福祉学部・看護学部間に設置)

### 現状の問題点

- STEAM教育・DXへの対応
- 地域学、アントレ教育の弱さ
- サービスの高度化に対する視点

### 新コースのポイント

1. 専門科目における学部の枠を超えた共通科目の設置
2. 地域の産業界(特に看護・福祉分野)を巻き込んでPBL科目の設置
3. アントレ科目・デザイン思考・STEAM教育・DXの看護・福祉・教育分野での展開
4. 福祉・看護・教育の枠を超えたサービス学的知見の科目新設
5. STEAM教育における山梨大学との連携による新規科目・連携開設科目の活用

# 山梨県立大学 創発デザインコース

## 【育成する人材像】

1. ものづくり企業に対するアレルギーが無く、新たな価値を付加出来る**文系ものづくり人材**
2. 複眼的な視点で県内の電子機械系企業で**新たな発想を付加出来るイノベーション人材**
3. 語学力やICTは当然として世界を俯瞰的に見る力
4. 現状に満足せずAIやIoTといった新たなトレンドを取り入れ事業化出来る人材
5. 山梨を知り・愛し志を持って行動する人材
6. 多様性に関する寛容さと**マネジメント力**

## 【新規開講科目】（計25科目）

エスノグラフィ(行動観察調査)、ビジネスエスノグラフィ I, II, III, IV

創発デザイン概論 I, II、デザイン基礎、 UXデザイン、 エンジニアリングデザイン I, II, III, IV

プログラミング基礎、 地域データサイエンス I, II, III, IV

DXと現場変革 I, II, III, IV、 プロジェクト演習 I, II, III

## 【県内就職先】（県内就職率55%以上）

ものづくり産業, 情報産業, 農業系6次産業, ベンチャー企業



# 山梨県立大学 ヒューマンサービスイノベーションコース

## 【育成する人材像】

1. DXやロボティクス・AI有効活用して**看護・福祉分野の高付加価値化に貢献**する人材
2. 人間福祉学部・看護学部の学びを活用して**ヒューマンサービスを異分野へ展開**する人材
3. アントレ教育、STEAM教育に基づいた**新たなヒューマンサービスを開発**する人材

## 【新規開講科目】（計8科目）

チームビルディングスキル、フィールドリサーチ

**デジタル技術活用リサーチ、データマイニングとエスノグラフィー**

多分野連携イノベーション、ヒューマンサービスイノベーション

## 【県内就職先】（県内就職率55%以上）

既存の福祉・看護施設, サービス業, 金融業, 将来の起業家

# 課題意識・目的意識の高い入学者の確保に向けた高大接続の確立(1)

## 1 探究型学修の支援 (山梨大・県立大)

- 令和5年5月から、地域の交流拠点において「**高校生探究活動相談会**」を実施
- 毎週1回、平日夕方の時間帯に大学教員が高校生の探究活動等の相談に対応
- 令和5年度は延べ56人の高校生が参加



## 2 専修学校山梨予備校との協働による取組 (県立大共催)

- 令和5年7月16日(日)、事業協働機関である「山梨予備校」との共催により、**高校生向け進学説明会**を実施
- 山梨大及び県立大の教員が、両大学の新しい教育プログラムについて説明
- 当日は、高校生及び保護者約150名が参加
- 令和6年5月には、山梨予備校と連携し、県内高等学校の教員と両大学の教員との交流会を予定



# 課題意識・目的意識の高い入学者の確保に向けた高大接続の確立(2)

## 3 大学教育の先取り履修 (県立大)

- 県立大では、高校生が授業を履修し試験等に合格した場合に、入学後に既修得単位として単位認定の申請ができる制度を令和4年度に創設
- 令和4年度は、69名の高校生が履修し、うち24名が入学(入学者全体の8.5%)
- 令和5年度は、62名が履修中



## 4 ファブリケーションスペースを活用した高校生向けイベント (県立大)

- 県立大では、3Dプリンターやレーザーカッター等を配置したファブリケーションスペースを整備
- 令和5年度は、高校生等を対象に次のイベントを実施
  - ①山梨県産ひのきを使ったオリジナルコースターづくり(7月27日、4名参加)
  - ②3Dプリンター体験会(8月7日~9日、132名参加)
  - ③熱転写プレス機でのオリジナルプリントエコバッグづくり(10月21日、2名参加)
  - ④ものづくり入学前体験会(2月3日~4日、14名参加)

ものづくり体験



# リカレント教育の推進と共助型学修コミュニティの構築(1)

## 1 Mashup Meeting (県立大主催 山梨大共催)

- 両大学と県内の**起業支援団体等とが連携**し、新たな価値を生み出すことができる人材を育成する**アントレプレナーシップ醸成**イベントを実施。令和5年度は、小学生から社会人まで延べ304名が参加
  - 6月12日 「今の山梨、これからの山梨」
  - 7月24日 「大学ベンチャーの創出について①」
  - 8月21日 「大学ベンチャーの創出について②」
  - 10月16日 「ケアとデジタルの共生を考える」
  - 11月20日 「人類学的なものの見方、問の見つけ方」
  - 12月18日 「地域を巻き込んだ起業家教育について」
  - 1月15日 「2050年を見据えた未来を想像・創造する～長寿企業から学ぶ～」
  - 2月19日 「2050年を見据えた未来を想像・創造する～中学生と考える～」



## 2 寺子屋「いいえん」(山梨大・県立大 共催)

- やまなし産業情報交流ネットワーク(IIEN.Y)との共催により、県内の**企業、自治体、産業支援機関、大学**などの関係者が**交流**するイベントを開催

令和5年2月18日 「新たなフェーズに突入する産学官金連携」 参加者58名

令和5年9月9日 「人口減少時代におけるウェルビーイングを山梨から考える」 参加者43名



# リカレント教育の推進と共助型学修コミュニティの構築(2)

## 3 Mt.Fujiイノベーションキャンプ（山梨大共催 県立大後援）

- 両大学が共催、後援として起業支援団体等と連携し、短期集中型のビジネスアクセラレーションプログラムを実施
- 各業界のスペシャリストによる指導・メンタリングを受けて各自のプランをブラッシュアップし、コンテストで発表  
9月14日～17日 37名参加（うち両大学の学生13名）



## 4 リアルファンディングinやまなし（山梨大・県立大後援）

- 両大学が後援として経営者団体と連携し、高校生や学生が地域を活性化させるアイデアを発表し、県内企業等からの参加者と交流するイベントを実施  
11月23日 195名参加（高校生28名、学生52名、企業関係者86名、行政関係者5名、大学関係者14名、その他10名）



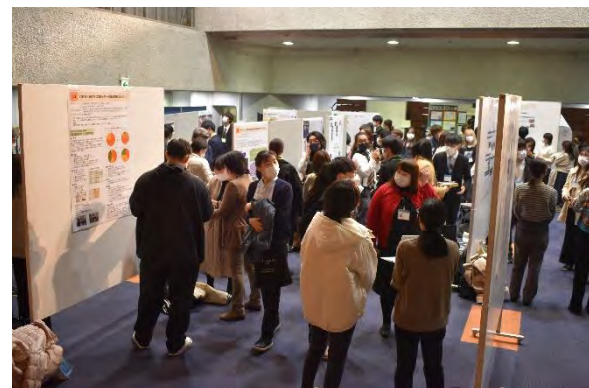
# 地域人材養成センターの一体的運営・垂直統合型人材支援体制の整備

## 1 地域人材養成センター合同定例会議

- 両大学のセンターでは、月に一度合同定例会議を実施(対面及びメール)し、イベントの共同企画や情報共有などを行うことで、**一体的な運営体制の構築**。
- **地域との共創をテーマとしたハンドブック「PEER」の作成**や、山梨ニュービジネス協議会が主催する「リアルファンディングinやまなし」の運営支援を県立大と共同実施。

## 2 フューチャーEVO

- 両大学は、令和5年2月7日(火)に**地域の高校生・大学生・社会人が合同で地域活性化の取り組みを発表し、交流するイベント、「フューチャーEVO」を開催し、約300名が参加。**
- 令和4年度の「フューチャーEVO」は、地域におけるSPARC事業のキックオフシンポジウムも兼ね、午前にシンポジウム、午後1分プレゼンやポスターセッションを行う、2部構成で実施。
- 1分プレゼンやポスターセッションを行うことで、**高校生には探究学修支援、大学生にはPBLの一環として実施。**
- 令和5年度は令和6年2月8日(木)に開催。参加対象を中学生や起業家・団体まで拡大し、約350名が参加。高大接続だけでなく、中高連携や社学連携(大社接続)、また起業家のプレゼンを聞くことによる、アントレ教育の充実を図る。



# 山梨地域の広報活動、幹事校としての活動

## 1 山梨地域の広報活動

- 令和4年度は、山梨大学と山梨県立大学が取り組む事業内容を説明するHP「**学びの山梨モデル**」を開設した。
- 令和5年度は、引き続き採択事業や両大学のHPで情報発信を行うとともに、採択事業の一連の取組に統一感をもたせ、事業に対する認知度を高めること及び事業の全容を明瞭に表現し、取組への理解が深められることを目的として、**ロゴマークと事業マップ**を制作し、印刷物や広報活動等において活用を開始した。

## 2 幹事校としての活動

- SPARC事業のHPや広報用ロゴマークの作成、全国シンポジウムを行った。
- 事業責任大学間の打合せ会や意見交換の場を設け、事業責任大学間の連携体制を整えた。

- ①令和5年2月2日(木)キックオフシンポジウム、ハイブリッド開催、約330名参加
- ②令和6年3月29日(金)、30日(土)全国シンポジウム、ハイブリッド開催、延べ320名参加
- ③事業責任大学間の打合せ(令和4年度3回、令和5年度3回実施)



キックオフシンポジウム



全国シンポジウム



SPARC事業山梨地域のロゴ



SPARC事業全体のロゴ

# 知(地)のソーシャルキャピタル～学びの山梨モデル～構築事業 事業マップ

